

校長室だより

大阪市立住吉第一中学校
令和3年6月発行

平和の詩 「みるく世(ゆ)の謡(うた)」

12歳

初めて命の芽吹きを見た。

生まれたばかりの姪(めい)は

小さな胸を上下させ

手足を一生懸命に動かし

瞳に湖を閉じ込めて

「おなかすいたよ」

「オムツを替えて」と

力一杯、声の限りに訴える

大きな泣き声をそつと抱き寄せられる今日は、

平和だと思う。

赤ちゃんの泣き声を

愛(いと)おしく思える今日は

穏やかであると思う。

その可愛らしい重みを胸に抱き、

6月の蒼天(そうてん)を仰いだ時

一面の青を分断するセスナにのつて

6月の蒼天(そうてん)を仰いだ時

私の思いは

76年の時を超えていく

この空はきつと覚えている

母の子守唄が空襲警報に消された出来事を

灯(とも)されたばかりの命が消されていく瞬間を

吹き抜けるこの風は覚えている

うちな一ぐちを取り上げられた沖縄を

自らに混じった鉄の匂いを

踏みしめるこの土は覚えている

まだ幼さの残る手に、銃を握られた少年がいた事を

おかげりを聞くことなく散った父の最後の叫びを

あつて良かつたはずがない事を

忘れないで、壊すのは、簡単だという事を

もうく、危うく、だからこそ守るべき

何度も拭つてきた涙

私は知つている

基礎(いしじ)を撫(な)でる皺(しわ)の手が

何度も拭つてきた涙

あなたは知つていて

あれは現実だったこと

煌(きら)びやかなサンゴ礁の底に

深く沈められつつある

悲しみが存在することを

凜(りん)と立つガジュマルが言う

忘れるな、本当にあつたのだ

暗くしめつた壕(ごう)の中が

憎しみで満たされた日が

本当にあつたのだ

漆黒の空

屍(しかばね)を避けて逃げた日が

本当にあつたのだ

血色の海

いくつもの生きるべき命の

大きな鼓動が

岩を打つ波にかき消され

万歳と投げ打たれた日が

本当にあつたのだと

月を彩る月桃(げつとう)が揺蕩(たゆた)う

忘れないで、犠牲になつていい命など

忘れないで、壊すのは、簡単だという事を

もうく、危うく、だからこそ守るべき

この暮らしを

この暮らしを

忘れないで

誰もが平和を祈つていた事を

どうか忘れないで

生きることの喜び

あなたは生かされているのよと

あなたは生きているのよと

いま摩文仁の丘に立ち

私は歌いたい

澄んだ酸素を肺いっぱいにとりこみ

今日生きている喜びを震える声帯に感じて

決意の声高らかに

みるく世ぬなうらば世や直れ

平和な世界は私たちがつくるのだ

共に立つあなたに

感じて欲しい

滾(たぎ)る血潮に流れる先人の想(おも)い

共に立つあなたと

歌いたい

蒼穹(そうきゅう)へ響く癒(いや)しの歌

そよぐ島風にのせて

歌いたい

「みるく世」は沖縄の言葉で、「平和な世の中」を意味しています。
「うちなーぐち」は、沖縄のことばという意味です。

みるく世を創るのはここにいるわたし達だ
暗黒の過去を溶かすことなく
あの過ちに再び身を投じることなく
繋ぎ続けたい

今、私たちの中にある
いま摩文仁の丘に立ち
あの真太陽まで届けと祈る
みるく世ぬなうらば世や直れ
平和な世がやつてくる

この世はきっと良くなつていいくと
繋（つな）がれ続けてきたバトン
素晴らしい未来へと
信じ手渡されたバトン

生きとし生けるすべての尊い命のバトン

平和な未来へ届く魂の歌
私たちは忘れないこと
あの日の出来事を伝え続けること
繰り返さないこと
命の限り生きること
決意の歌を
歌いたい

平和を願う心をつないで

【恒久の平和を念願し / 平和の内に生存する権利を有

6月23日（水）。この日は、沖縄戦の終結から76年目の慰霊の日でした。

この詩は、宮古島市立西辺中学校2年生、上原美香さんの自作の詩です。宮古島の民謡から取り入れたそうです。上原さんは、この詩を追悼式でのびのびと読み上げました。皆さんと同じ中学生が、学校の平和学習や資料館の見学で学んだ76年前の現実に向き合い、平和をつなぐ大切さを述べています。「平和な世界は私たちがつくるのだ」そして「あの日の出来事を伝え続けること 繰り返さないこと 命の限り生きること」と、この世を生きる私たちの命の大切さを述べています。平和を考えることは、命の大切さを学ぶことと、私はこの詩を読んで改めて感じました。

私の両親も戦争体験者です。B29が焼夷弾を落として大阪の空を飛んでいたこと、大阪大空襲を知っています。母は、空襲で家が焼けてしまったことを小学生の私に教えてくれました。滋賀県の長浜に疎開したこと、その疎開先に、最期の時は家族でそろっていたいという思いで母親（私の祖母）が汽車に乗って迎えに来たことを話してくれました。父は、小学校6年生の時に、戦闘機の機銃掃射で追いかかれ、畑の中を走って逃げる友人を見た経験を話してくれました。当然のことですが、「戦争は絶対に嫌だ」と言っていました。子どもながらに、戦争の恐怖を感じ、平和な日本で生きているんだと思いました。学校での平和学習で、自分でもいろいろ調べて学ぼうとしたのは、両親が話してくれたからだとも思います。

7月になると、皆さんには、平和学習に取り組みます。皆さんができるこの日本で、世界で何があったのかを知り、平和を語り継ぐことが、いかに尊いことなのかを全身で学んで欲しいと思います。

「みるく世を創るのはここにいるわたし達」です。

【沖縄慰霊の日 平和宣言文より】

Let us free this planet from all battles and wars
By connecting the hearts of all those who wish for peace

地球上からあらゆる戦をなくすこと
一人ひとりが平和を願う心をつないでいくこと